

第 3 回宇都宮市緑の基本計画策定懇談会における主な委員意見への対応

【懇談会結果概要】

- 懇談会では、計画素案全体について、概ね賛同いただいたが、細かい表現や市民への伝え方、市として大きな方向性に盛り込むべき考え方について意見があった。
- 以下、主な委員意見と意見への対応方針を整理する。(意見整理は事務局の分類による)

意見の概要	対応	対応箇所
■緑の役割		
<p>■「緑の役割」の記載位置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はじめに」の部分でみどりの役割を説明してはどうか。現在は序章の前に緑の役割が入っているが、緑の役割を序章として、計画の策定や背景などは第 1 章として章を立てるのはどうか。(岡地委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見を踏まえて、緑の役割については、計画の重要な導入部分であるため、章立てはせずに「はじめに」とすることで、以降の章立てとの差別化を図ることとする。 ・上記「はじめに」の冒頭に 1 ページ追加し、総論も含めた緑の役割について説明するリード文を記載する。 ・第 3 回懇談会時の素案の「序章 はじめに」は、「第 1 章 計画の基本的事項」とする。 	P1
<p>■「緑の役割」の記載内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑の役割の説明文章はもう少し詳しく書かれていても良いと思う。(林委員) ・緑の役割の最初のページに総論的な緑の効果を記載して、その後から写真付きのページがある方が見やすいように感じる。(野口委員) 		
■序章 はじめに		
<p>■ (2) 計画の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・位置付けています。→ 位置付けられています。(山根委員 文書での意見) ・「計画の位置付け」図中の「即す」→ 一般的な用語か？ 適合との違いは？(山根委員 文書での意見) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 点目については、策定主体は市であるため、能動態のままとする。 ・ 2 点目については、各計画の根拠法で使われている用語に準拠することとする。(図中の表現は現在のまま) 	P11
■第 1 章 緑の現況と課題		
<p>■ 1 緑の形成史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代 : ・LRT による,, , は・新型コロナ,, , の後ろの位置が適切では。(山根委員 文書での意見) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの発生と記載順を入れ替えるとともに、LRT による交通ネットワークの記述は、「NCC の形成に向けたまちづくりの進展」に記載を修正。 	P16
<p>■P19 農地</p> <p>「NCC」が初めて登場しており、一般的な用語ではないと思いますので、説明が必要でしょう。P58 以下は OK。P153 のネットワーク型コンパクトシティに(NCC)を。(山根委員 文書での意見)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・NCC が初出となる P16 にて、「NCC (ネットワーク型コンパクトシティ)」と記載。 	P16
<p>■P21 道路緑化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市側の現状認識は？(小池委員 文書での意見) ・市民アンケートでは、トチノキの落ち葉や実の害、根上がりによる歩道持ち上げ等が問題点として挙げられている⇒市では状況を把握していなかったようなニュアンスに受け取れる。(小池委員 文書での意見) 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当箇所を以下のように修正。 <ul style="list-style-type: none"> ・しかし、トチノキの落ち葉や実の害、根上がりによる歩道持ち上げ等については、市民アンケートにおいても問題点として挙げられているほか、中心市街地における街路樹の適切な配置を求める意見も多く、解消が必要な場所もあります。 	P24
<p>■P22 市民意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査の対象者は？(小池委員 懇談会欠席のため文書での意見) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 点目、調査の対象者は次のとおり。(資料編に記載済み) ・宇都宮市の住民基本台帳に登録されている 	P146

意見の概要	対応	対応箇所
<ul style="list-style-type: none"> 現在の緑の量への満足度・・・「少ない」と感じる人が減少して「ちょうどよい」が増加⇒答えた人の住んでいる環境や、7～80年の急激な環境の変化を見てきた人と便利に染まった今のひととの感覚のギャップによって大きく変わる。(P51 目標2にも通じる)(小池委員 文書での意見) 	<ul style="list-style-type: none"> 満20歳以上80歳未満の市民のうち、無作為に抽出した3,844人を対象に郵送による配布、回収を用い、アンケート調査を実施。 有効回答数は1,408人で、年齢構成は、20歳代115人、30歳代207人、40歳代264人、50歳代214人、60歳代268人、70歳以上336人、年齢不明4人である。 2点目、回答者の居住年数ごとの緑への満足度の分析結果を資料編に加えることとする。 	
<ul style="list-style-type: none"> ■5 (1) 都心部の活性化 花や緑を感じられる快適な→花や緑に囲まれた快適な (あたりでは)。(山根委員 文書での意見) 	<ul style="list-style-type: none"> 「囲まれた」は実際に物理的にも囲まれていることを想起させるが、実際の状況とは異なるため、表現としては適さないものと認識。 「感じられる」よりも実際の状況を表現できる代替案として、「花や緑に彩られた」に修正。 	P26
<ul style="list-style-type: none"> ■6 前計画の目標達成状況 緑被率、緑視率、緑地率、満足度：巻末の説明はありますが、この表の下などに小さい文字で脚注があった方がわかりやすいでしょう。(山根委員 文書での意見) 	<ul style="list-style-type: none"> 脚注に用語の説明と解説のイラストを記載。 	P31
<ul style="list-style-type: none"> ■7 計画改定の課題 「以下に示す課題に対応していくことが重要です。」の後に全ての文に「重要です」がついていますが、不要では？(山根委員 文書での意見) 	<ul style="list-style-type: none"> 「重要です」を削除すると文章的な違和感が生じるため、リード文で「課題を以下の通り整理しました」とした上で、課題の各記載は、「必要です」「求められます」等、適宜表現を修正。 	P32, 33
■第2章 基本理念		
<ul style="list-style-type: none"> ■1 基本理念 「同じ方向を向いて」はやや強制的なイメージ。「協働して」くらいにとどめては？(山根委員 文書での意見) 5行目 「桜づつみ等」は後ろにかかる？ここで切れている印象を受けます。(山根委員 文書での意見) 8行目 「確保します」までは言い切れないのでは？「高めます」あたりでは。(山根委員 文書での意見) 	<ul style="list-style-type: none"> 1点目、3点目については、ご指摘のとおり修正。 2点目については、「桜づつみ等の緑が風景の一部である地域拠点」に修正。 	P36, 37
■第3章 緑のまちづくりビジョン		
<ul style="list-style-type: none"> ■緑の将来像について 将来像は、宇都宮市全体の将来像というより、宇都宮市の緑に関する将来像であるため、例えば「暮らしやすさと訪れる心地良さを演出する豊かなみどり」など、「みどり」で終わらないと、何を目指しているのかが曖昧になってしまうと思う。(五艘委員) 総合計画等の宇都宮市全体について言及する計画との差別化を図るためにも、緑の計画では「みどり」に焦点を当てられれば良いと思った。ただし、あくまで一意見で、必ず「みどり」で終わらないといけないということではない。(五艘委員) 将来像は、緑によってどういうまちにしたいかを表現できればよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの人に緑の取組に関わってもらうためには、本市にとって緑は、市民や来訪者が魅力的と感じるまちを形成する要素であることを広く共有する必要があることから、上記の考え方を明確に標榜する表現として、「みどり」ではなく、「みどりのまち」に焦点を当てた現案の「暮らしつづきたい 訪れたい みどりのまち 宇都宮」のままでパブリックコメントを実施。 	P44

意見の概要	対応	対応箇所
<p>「住めば愉快だうつのみや」が浸透しているのに、宇都宮で終わっていても違和感はない。(岡地委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来像も含めて、市民からのご意見をパブリックコメントで伺ってみたいと思った。(大森委員) 		
<p>■質の高いみどりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 質の高い緑とは何かを具体的に記載できると良いと思う。今までの緑と質の高い緑の違いを具体的に記載し、それを目指して施策を展開できると良い。抽象論だと市内全体に伝わらないため、基本計画としての目標を具体的に記述すべきである。(富委員) 質の高い緑については、人によって解釈が異なると思う。具体的にイメージを持ってもらうためには、もっと書き込みを増やした方がいい。(岡地委員) 質の高い緑とは、管理が簡単なのか、長持ちすればよいのか等、判断基準が異なるため、文字を入れて説明することでより分かりやすくなると思う。(相澤委員) 質の高さは、緑の種類や地域によって捉え方が異なる。中心市街地については市民にとって身近な場所なので、質の高さが何か分かりやすい方がいい。(岡地委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針2のリード文に、質の高い緑に関する補足を追加。 	P48
<p>■基本方針の関係性</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2次計画で整理していた5つの基本方針が全くなくなったのではなく、5つの基本方針の思想は引き継がれており、更に時代の変化でアップデートして、3つの方針になっていることが分かると良い。5つの方針と3つの方針が1対1で対応しておらず、厳密な整理をしないと、見づらくなってしまふことは理解した。(大森委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針の関係性の下段に、第2次宇都宮市緑の基本計画から継承・深化した方針であることを記載。 	P51
<p>■計画の評価指標について</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本方針3の目標水準及び重点プロジェクトIIIの取組目標について、市が法律や条例で指定している緑地での活動に限る整理とはせずに、例えば大学の森や、私有地を活用している個人・団体の活動も、目標数値の内訳に含むことができるとよいのではないか。(桂木委員 11/8 事前説明) 表の目標3の 3,350人 → 人/年などどこかに1年あたりであることを示す。(山根委員 文書での意見) 	<ul style="list-style-type: none"> 1点目については、現在、緑地保全・緑化推進に係る個人・団体の活動者数を把握することはできないため、計画期間中にこれらの状況把握に努め、目標の見直しを検討する旨、記載。 2点目については、ご指摘のとおり修正。 	P54

意見の概要	対応	対応箇所
■第4章 ビジョン実現のための取組展開		
<p>■重点プロジェクト3について</p> <ul style="list-style-type: none"> イメージの中の○ですが、「長岡の森」「みずほの森」などもう少し具体例を入れた方がそれぞれイメージしやすいかと。(山根委員 懇談会欠席のため文書での意見) 	<ul style="list-style-type: none"> イメージの中の○は、「長岡の森」「みずほの森」などの具体的な場所や範囲を示すものではなく、拠点周辺部の緑地を示すものであるため、○全てに対応する名称表示は行わないこととし、委員指摘の「長岡の森」「みずほの森」のみ場所を表示することとする。 	P71
<p>■空き家の緑について</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き家問題については緑の基本計画でどう取り扱うのか。緑の質に関連する問題であると思う。空き家とともに放置された緑の管理は、どのあたりまで市が行うのか。道路上に出ている空き地や空き家の緑の管理は交通にも影響を与えるため、市が介入する必要があるのではないか。市民では地主の連絡先がわからず、対処ができない。空き家対策をまちの緑として捉えて、何らかの形で緑の基本計画に組み込むことはできないか。(岡地委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅の緑は、ネットワーク形成や景観形成に重要なまちの緑と捉えていることから、本計画では、施策 H6「多様なメディアを活用した緑に関する情報発信」において、関係課と連携しながら空き家を含む住宅の緑の適切な維持管理の在り方等について情報発信することなどにより、安全安心な住宅地の形成につながる質の高い緑化を促進していく。 	P79
<p>■地元に根付いた小さな公園について</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3章、第4章で「質の高いみどり」「公園の質を高める」等公園と緑化の関係が多く取り立たされているが、景観を重視する市の「まちづくり」(公園)はともかく、生活感(まちづくり)を重視した地元に根付いた小さな公園の具体的なイメージが若干希薄に感じる。(小池委員 懇談会欠席のため文書での意見) 	<ul style="list-style-type: none"> 施策 F-②のなかで、健康福祉、高齢者の気軽なスポーツのための設備、子育てのための遊具、誰もが安全安心に利用できる遊具等、施設整備の視点で具体的な記載を追加。 	P76
<p>■生物多様性に関する施策について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「⑦生きものとその生息・生育環境の保全」とあるが、生物多様性保全の観点はここだけである。内容もうつのみや生き物つながりプランに基づいて会議を行う、監視活動をする、外来種対策をする、ということしか書いていないため、希少種や宇都宮を特徴づける環境の保全等、緑として何をしていくのかをもう少し追記した方が良いと思う。(林委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 施策「G-⑦生きものとその生息・生育環境の保全」を以下のように修正。 <ul style="list-style-type: none"> 「うつのみや生きものつながりプラン」と連携しながら、市街地やその周辺のまとまった自然環境の保全、希少種や宇都宮を特徴づける環境の保全等、アドバイザー会議の開催、自然環境保全地域等の監視活動、クビアカツヤカミキリなどの外来種対策などを実施する。 	P78
<p>■滯筋について</p> <ul style="list-style-type: none"> 滯筋 よみがな、説明必要では？(山根委員 懇談会欠席のため文書での意見) 	<ul style="list-style-type: none"> 施策「G-⑧多自然川づくりの推進」について、「滯筋」によみがなと用語解説への説明を追加 	P78
<p>■緑に関する情報発信について</p> <ul style="list-style-type: none"> 市政ニュースなどに宇都宮の見どころなどをより強調して載せた方がよい。例えば、月ごとに、おすすめの散歩コースや見どころをアピールして、市民に分かりやすく伝えられると良い。市民が良いまちだと思えるようにすることが重要である。(相澤委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 施策「H-⑥多様なメディアを活用した、緑に関する情報発信」に、「広報紙、パンフレット、インターネット等を活用し、情報網の構築を図るとともに、<u>季節に合った見どころやおすすめの散歩コース等</u>、緑に関する情報を広く発信する。」と記載 	P79

意見の概要	対応	対応箇所
■第5章 地域別方針		
■緑の状況の図について ・地域別方針については、文章から読み始めるとどの地域が話題になっているのかが分かりにくいいため、緑の状況の図を最初に示してはどうか。(林委員)	・各地域の冒頭にキープランの図を追加。	P96, 100, 104, 108, 112
■生物多様性に関する記載について ・生物多様性の観点からの記載が弱い部分も見られるため、見直していただけると良い。(林委員)	・各地域における「市を代表する自然環境」について固有名詞を示し、希少種などとともにその自然環境を保全していく旨を記載。	P98, 102, 106, 110, 114
■第6章 計画の進行管理		
■進行管理について ・いつごろ何をするのかを書いた方が良い。最初の段階で立てたものを全て実行しなければならないというわけではなく、そのときの状況に合わせて見直しを重ねていければ良い。(五艘委員) ・計画の進行管理として、市の意気込みを示すべきだと思う。施策全体の具体的なロードマップをA3一枚程度でまとめられるといい。(富委員)	・「いつ頃何をするのか」「市の意気込みを示す」について、個別事業ではなく、計画全体で、将来像実現にむけた大きな流れを示すこととする。	P118
・目標指標とモニタリング指標の違いが捉えづらい。目標指標も経年的に把握していくのであれば、目標指標も、モニタリング指標のひとつとして整理しても良いかと思う。 ・重点プロジェクトの取組目標も含めて、数値的に観測していくデータは、計画書の最後に一覧に整理してはどうか。(大森委員 事前説明時)	・「目標指標」は、将来像の実現に向けて基本方針ごとに達成すべき目標値を定め、中間見直しや計画改定時に達成度を評価するもの。 ・「モニタリング指標」は、目標値までは定めず、目標指標の達成に向けて経年的に把握していくことが必要なものとして整理し、差別化する。 ・上記の差別化を図った上で、ご指摘の通り、継続的に観測していく指標であることから、計画書の最後に一覧として整理 ・なお、これらに関する言葉の整理として第3回懇談会から以下の通り表現を変更している。 ・目標指標 ⇒ 指標 ・重点プロジェクトの指標 ⇒ 取組指標 ・モニタリング指標 ⇒ 変更なし	P119
■その他		
■「多様な主体」の表現について ・「多様な主体」という表現が素案の中で使われているが、市民によっては他人事に感じてしまうかもしれない。「様々な人や団体」など、代替案を検討いただきたい。(林委員)	・「多様な主体」を「様々な人や団体など多様な主体」に変更。	全般